

大学ミュージアムについての学生意識アンケート調査の成果

～京都・大学ミュージアム連携の活動を通じて～

京都・大学ミュージアム連携 運営委員会

はじめに

京都・大学ミュージアム連携は、2012 年度から活動をはじめた。京都市内を中心とした 14 の大学のミュージアムの連携活動で、スタンプラリー・講演会・合同展などを約 10 年間行ってきた。特に合同展は、京都だけでなく、順に福岡市・仙台市・那覇市・つくば市といった各地域、さらに海外では台北でも開催され、活動の幅は広がった。これにより、京都という大学のまちを形成する諸大学のミュージアムが人文・社会・工芸に関する多様な所蔵品を有していることを示してきた。また、大学ミュージアムの活動が社会的重要性を持つことを内外に確認していった。その影響をうけてか、活動の形態は異なるもの、関西では大学ミュージアムの連携活動が、京都とは別に発足したりもした。また、連携活動をしてきた諸館の担当者たちは自館だけではできなかった広範な地域や対象者に大学ミュージアムの価値をアピールすることが可能となった。

また、2021 年度より、6 人の運営委員によって企画運営と庶務作業を行う体制へと、運営委員会や事務局の体制を見直した。活動内容としては、最初の 9 年のような大規模なものは難しくなりつつあるが、一方では、大学ミュージアムの意味と価値を足元に立ちかえて考えて活動する段階にも来ていると感じる。

そのうえで大切なことの一つは、大学やそのミュージアムがもつ学術資料や芸術作品とその収蔵・展示・研究活動が社会全体からどう見られているかという問題だけでなく、もっとも近い存在である大学生たちからどのように知られ・利用され・評価されているかということを意識することでもあろう。それについての情報収集をはかるために、加盟館の大学の学生に対して、所属大学のミュージアムあるいは他の大学ミュージアムについてどういう体験や知識や期待をもっているかについてアンケート調査を行いその結果を提示して議論の素材としたい。

また、このアンケートは、大学以外の一般ミュージアムにとっても、20 歳前後を中心とした若年層がミュージアムに対してどのような親和度や期待を持っているかどうかを知る一つの手がかりにもなると感じる。以下、アンケートの内容と結果である。図表とともに記述を進める。

1. アンケート調査の内容

対象者： 14 館の所属する大学の学生。アンケート調査自体は、連携運営委員会が設定した Google フォームを利用して、オンライン上で回答を記入していく形態とした。調査期間は 2022 年 5 月～7 月で、アンケート調査への協力を学生によびかけた大学名は下記の 14 大学である。総回答者数は 680 名で、無記名で回答者の個人情報全く取得しない方法をとった。所属大学などの情報については任意回答とした。

大谷大学、京都外国語大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都芸術大学、京都大学、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、同志社大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学

広報の方法： 各大学での呼びかけ方法は同じではなかった。多くの大学では全学生が閲覧できる学内のウェブ上の掲示板や一律に配信される大学からのメール・メッセージ送信により広報を行った。さらに、いくつかの大学では教員が授業時のコメント提出に類する課題にしたり、強く回答を勧めるなどする例もあった。学内での一律ウェブ配信告知だけだった大学では、広報対象者数に対する回答率は1パーセントにも満たない場合もあった。授業での明確な紹介をしたものについては授業登録者のうち10～80%程度の回答率の大学もあった。ただ、前者では告知数が全学に及び大きいので、一定の回答者数はあった。そういう意味では、ミュージアム・文化遺産・作品作成や展示を学ぶ学生や展示につながる人文・社会科学やアート関係に関心を持った学生の回答が、ある程度の比率を占めるとも考えられる。このことは、後述するように、アンケート調査結果に示めされた回答者のうち専攻分野で人文系と芸術実技系専攻生、学芸員資格取得を志向する学生の比率が高いことには反映されている。

とはいえ、一般の博物館・美術館によるアンケート調査への回答者はほとんどの場合は来館者によるものである。ところが、回答者層の偏りはみられるものの、来館学生への調査ではなく関心の薄い、来館経験の少ない層をも含んだ調査結果である点は貴重なものだと考えている。

アンケートの質問内容： 以下の点を軸として設定した。質問内容と回答結果の詳細は後の図表に示すが、質問の方向性は以下の点を中心としたもので、次の順に回答する方法をとった。

回答者の特長：所属大学・学部や専攻分野・所属学年・学芸員資格取得への関心や授業登録

ミュージアムへの親和性：一般ミュージアムを含む関心・所属大学ミュージアムへの関心と来館や活動参加状況・他大学ミュージアムへの関心と来館や活動参加状況

大学ミュージアムの広報：利用される広報方法・学生が期待する広報方法

大学ミュージアムに学生が持つ印象：現状のイメージと希望・期待

2. アンケート調査の分析結果

2.1 回答者の特長

質問1の結果にみるように、回答者のうち最多数は京都工芸繊維大学（約35%）となった。これは、学芸員関係科目の授業でこのアンケートへの回答を課題としたためでもある。それ以外は、各大学に回答者は分散しており、それぞれ数～10%台で、圧倒的多数を占める大学はない。質問2への回答をみると、所属学生の学年は3年次以上が約35%、2年次が約40%、一年次学生は約20%であった。2年次学生が最も多いことになる。また、少数であるが大学院生や短期大学生も回答している。

質問3の専攻分野については、全体にばらついてはいるものの、人文科学系と芸術工芸系が各約24%と多い。やはり、文化遺産やアート・工芸などにかかわる専攻の学生が約半数を占める。この点は、普段からミュージアム親和性をもった学習や進路を選択している学生が回答者の中心であることを示している。そのことと相関するように、質問4の回答結果として、学芸員資格取得のための授業登録を行っている学生が約33%、それに関心を持っている学生が約20%と全体の半数を占める結果となった。1

年次生が回答者一定数を占めることを考えると、まだ資格取得のための授業履修を本格化させていないが、2年次以後学芸員資格取得の履修を行う予備軍も回答者中に多く含まれていると考えられる。

2.2 ミュージアムとの親和度

質問5では回答者が日頃どの程度ミュージアムを利用するかについて取り上げた。この中では、この1年間に大学以外のミュージアムをどれだけ訪れたかについてのものだが、全く訪れていないのが約3割、1-2回と3-4回を合わせると約半数が昨年度ミュージアム見学をしていることがわかる。先述のように回答者の中に文化遺産やアートに関心を持つ層が多いことがこの結果に反映しているだろう。

質問6の回答をみると、自分の所属大学のミュージアムの有無については、8割を超える回答者がその存在を認知していることがわかる。また、質問7の回答を見ると、実際に所属大学ミュージアムの見学回数をみると3割が0回なのに対し、1-2回が約44%、3回以上が25%程度となっていた。この結果は、大学以外のミュージアムの見学比率と類似しているが、やや回数が少ない傾向であり、リピート率が多くない傾向を考えたとしても良いのかもしれない。とはいえ、学内での一定の認知度を得ていること、展示に対する関心を得ていることは留意すべきではないだろうか。また、見学動機についての質問8では個人的な関心が約6割を占め、次いで授業利用などが続く。教育の一環としての利用も重要性ももつが、実際には学生自身の関心に基づいて来館していることが明確である。学内認知は悪くはなく、展示活動に対しての学生の関心も一定程度あるという評価はできるかもしれない。

大学ミュージアムでのイベント的活動への参加頻度と内容について、質問9・10で問うている。この回答では、実際の活動参加と見学が少ないことがわかる。これは、学生自身の主体性の問題もあろうが、大学ミュージアムが学生と協業して活動をあまり行っていないことを示している。あるいは、そういった活動の場への広報が不足していること、あるいは関心を積極的に喚起できていないことを示しているのかもしれない。また、それがゆえに、展示以外の活動を見学しに来た経験のある学生も少ないともいえるだろう。質問10の実際に学生参加の活動にかかわったと回答した中には、「博物館展示実習」「英語授業で展示品の英語解説を作成した」「サークル・部活動での展示」「(作品制作の)展示」、「大学生協の新歓イベント」「映画上映会」「監視員」というものがみられた。ミュージアム側が仕掛けた活動というだけでなく、授業・学生自治活動などにかかわることについて大学ミュージアムを発表の場として行う例が多いことを示している。言い換えれば、このような利用が、ミュージアム側からの企画以外にも学内で求められ、役割を果たせる分野ともいえよう。

また質問11で、所属する大学ミュージアムでの展示以外のイベントへの参加頻度や内容について問うているが、これも少数の参加にとどまっているようである。質問12への回答にみるように回答者が参加したものの内容は、講演会・シンポジウムや解説などのイベントがみられる。これについては、展示の関連したイベントが効果を持っていることがわかる。

また、質問13の回答にみられるように、所属していない大学のミュージアムについては知らないという回答した学生が半数近くに上った。回答者の多くが文化遺産やアートに関心を持つ層であることを考慮すると、学内での広報や授業利用以外の情報拡散は大学ミュージアムにおいてはあまり活発でないか成功していないと評価できよう。京都・大学ミュージアム連携の10年の活動は、京都の大学にミュージアムや所蔵品があることは広報できたかもしれないが、個々の大学ミュージアムについて情報拡散ができたわけではないと理解するべきなのかもしれない。また、この連携館の中でも、どの館が良く知られているのかについては、質問14の回答が参照できる。ここでは、京都大学総合博物館・龍谷大学龍谷

ミュージアムが一位と二位を占めた。これは、大規模館であること、展示会の広報などを大きく行っていることなどの条件が作用していると考えられよう。特に京都大学の回答学生数が少ないにもかかわらず、もっとも知られる博物館であることは、学外からの知名度の高さを示している。質問 15 にあるように、他大学のミュージアムの見学は、所属館よりもさらに個人的関心の度合いが高いことも指摘できよう。また、大学のミュージアムにはイベントなどへの参加も強い動機となることも示されている。ただ、質問 16・17 の回答にみるように、他大学のミュージアムでの活動への参加や来館は、所属大学のミュージアムよりもさらに低いことも明確となった。質問 18 の回答中にあるように、大学進学以前にキャンパスツアーでの来館体験も含まれていることは留意される。

2.3 大学ミュージアムの広報

先述のように、学外者にとって大きな影響を与える大学ミュージアムの広報については、質問 19・20 の回答が参考になる。質問 19 では学生にとってはウェブサイトによる広報効果が明確であると同時に、ポスターなどの学内掲示や授業を通じての告知も重要であることがわかる。これらはもちろん所属大学のミュージアムに関する広報ということになるのだろうが、この点は大学ではない一般ミュージアムとは明確に異なる点であろう。また、学生自身がどのような広報を望むかについての質問 20 への回答は SNS が最も多くなった。大学や館独自のウェブサイトで広報する大学ミュージアムは多いが、さらに広報効果を拡大するためには SNS による情報拡散の利用は不可避の方向性であろう。

2.4 大学ミュージアムに学生が持つ印象

さらに、大学ミュージアムに学生が持つ印象については、質問 21 への回答が明解にその特徴を示している。一般ミュージアム同様の観光・生涯教育なども挙げられているが、教育・研究・研究資料に相関したイメージが大きなウエイトを占めることが明確である。この点は一般ミュージアムとは大きく異なる点である。むしろこの点は、大学ミュージアムの強みと考える必要があろう。

また、質問 22 の大学ミュージアムに望むことへの自由記述回答の内容は多様であるが、「知」「研究」といったキーワードが多いことは留意するべき点ではないだろうか。

おわりに

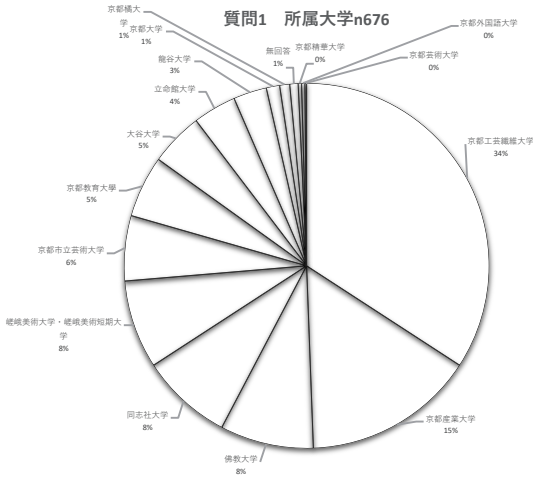
以上のアンケート結果を概括すると下記のことが言えるのではないか。

- 1) 大学ミュージアムは個人の関心と授業などでの利用を通じて学生の見学者を得ている。
- 2) 文化遺産やアートに関心を持つ学生層には、所属大学のミュージアムの知名度一定程度あって、見学来館も得ている。ただ、他大学ミュージアムについては知見が十分ではなく、一部の大規模館が良く知られている状況である。
- 3) 展示以外のイベント活動への参加者などは少ない。これは、大学のミュージアムじたいが、学生を取り込んだイベント活動を多くしていない傾向を示している。見学動機をみるとイベント参加目的も多く、これが学生来館者を増やすカギとなる可能性がある。
- 4) 広報については、所属大学のミュージアムについては学内での告知の効果が現状では大きい。ただし、学生は SNS での広報の拡大を望んでいる。
- 5) 学生自身も大学のミュージアムについては、教育や研究と相関させた活動を強くイメージしている。多様な見学者の獲得は大切であるが、大学の特性をいかした活動が重要である。

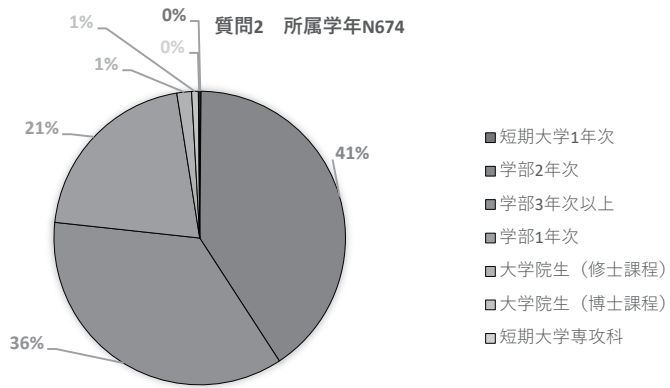
上記のうち、3) や5)などを考慮すると、大学のミュージアムの運営については、所属大学の学生の活動や学びを大きく取り込んでいくことが効果的なのではないかと考える。ともすれば、大学ミュージアムの学芸担当者は一般ミュージアムのような展示活動ができないかとも考えるが、足元を見れば眼前にいる学生との協業や接点を増やすことが、重要なものかもしれない。

それらに取り組むことにより、各大学ミュージアムの学内での重要性を増すことが可能となる。同時に、一般ミュージアムに対して大学ミュージアムの「強み」を強調することにつながるかもしれない。また、大学ミュージアムの連携活動はそういった方向性を相互にアシストする効果を目指すべきなのではないだろうか。また、京都は大学の街でもあり、それ自身が街の活性化にもつながる可能性を秘めているのかもしれない。

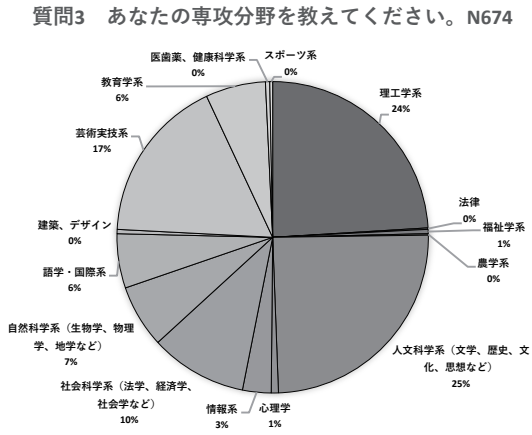
質問1 所属大学（任意回答）	回答数
京都工芸繊維大学	231
京都産業大学	103
佛教大学	56
同志社大学	55
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	53
京都市立芸術大学	39
京都教育大学	37
大谷大学	32
立命館大学	26
龍谷大学	20
京都大学	8
京都橘大学	6
無回答	5
京都精華大学	2
京都外国語大学	2
京都芸術大学	1
総数	676



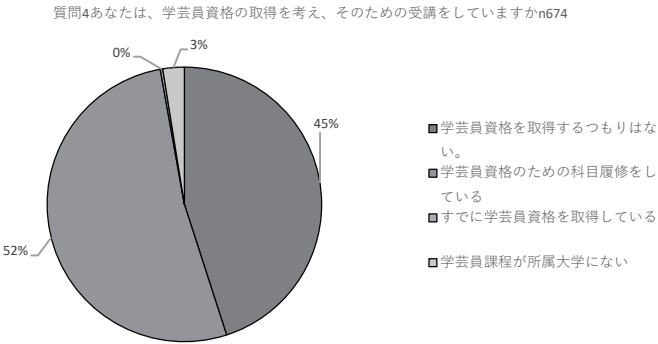
質問2 所属学年	回答数
短期大学1年次	1
学部2年次	274
学部3年次以上	242
学部1年次	140
大学院生（修士課程）	11
大学院生（博士課程）	5
短期大学専攻科	1
総数	674



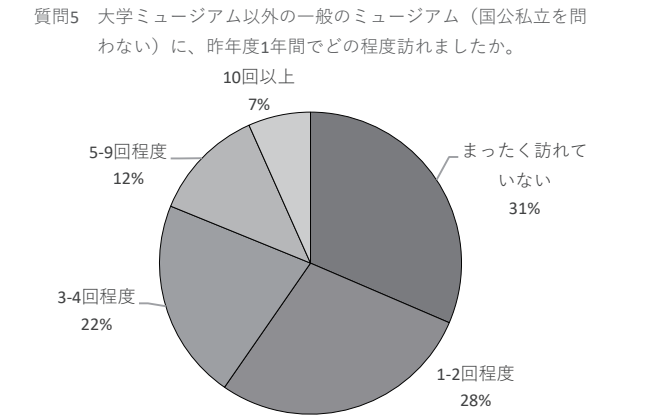
質問3 あなたの専攻分野を教えてください。n674	回答数
理工学系	162
法律	1
福祉学系	3
農学系	1
人文科学系（文学、歴史、文化、思想など）	166
心理学	5
情報系	20
社会科学系（法学、経済学、社会学など）	68
自然科学系（生物学、物理学、地学など）	44
語学・国際系	38
建築、デザイン	3
芸術実技系	116
教育学系	42
医歯薬、健康科学系	3
スポーツ系	2
総数	674



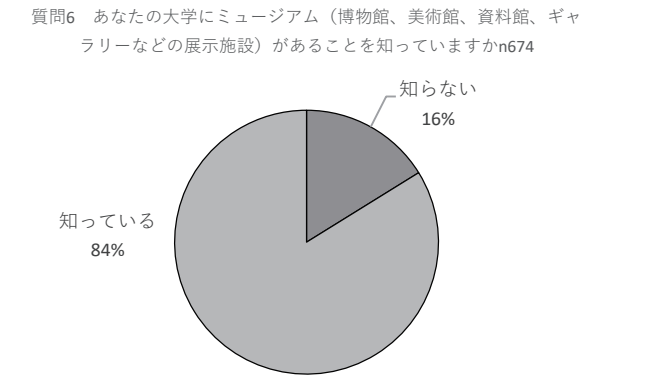
質問4あなたは、学芸員資格の取得を考え、そのための受講をしていますかn674	回答数
学芸員資格を取得するつもりはない。	303
学芸員資格のための科目履修をしている	351
すでに学芸員資格を取得している	2
学芸員課程が所属大学にない	17
総数	673



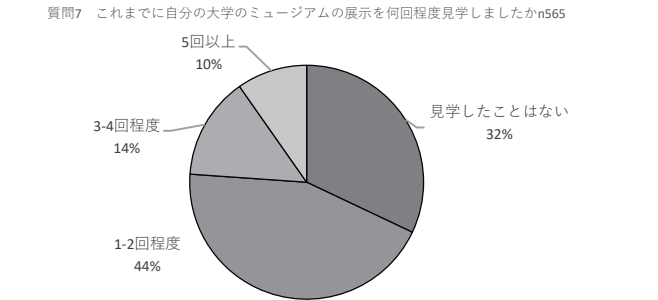
質問5 大学ミュージアム以外の一般のミュージアム（国公私立を問わない）に、昨年度1年間でのどの程度訪れましたか。	回答数
まったく訪れていない	212
1-2回程度	190
3-4回程度	145
5-9回程度	82
10回以上	45
総数	674



質問6 あなたの大学にミュージアム（博物館、美術館、資料館、ギャラリーなどの展示施設）があることを知っていますかn674	回答数
知らない	109
知っている	565
総数	674



質問7 これまでに自分の大学のミュージアムの展示を何回程度見学しましたかn565	回答数
見学したことはない	181
1-2回程度	249
3-4回程度	80
5回以上	55
総数	565

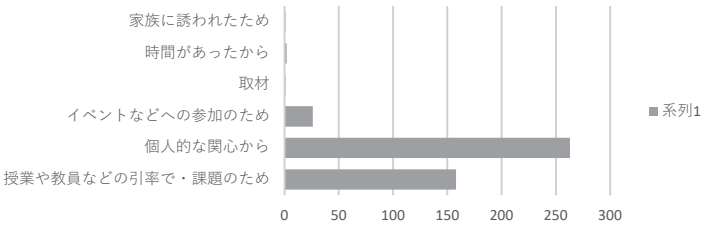


質問8 自分の大学のミュージアムへは、どのような動機で展示を見学しに行きましたか（複数回答可）	回答数
授業や教員などの引率で・課題のため	158
個人的な関心から	263
イベントなどへの参加のため	26
取材	1
時間があったから	2
家族に誘われたため	1
	451

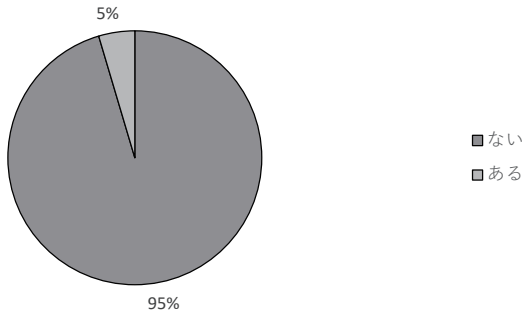
質問9 自分の大学のミュージアムを利用して何か活動（展示や発表会、イベントなど）をしたり、活動にかかわったりしたことがありますか	回答数
ない	540
ある	26

質問10 それはどのような活動でしたか（質問9に続けて、自由記述）
毎年8月に3,4年次生で前期課題の展示を行う
特別展示など
展覧会想定の授業
展覧会の企画と運営
展示会
大学の授業で制作された作品の展示の活動でかわりました。
他大学の学生へ弊学の施設を紹介するイベントの一環で大学美術館を紹介した
設計の課題の際に自分の作品の参考にした
生物部
生協の新歓イベント
制作展
実習生展
実習
実習
資料館の図面を見て、トレースする課題が出された。
企業との提携プロジェクトでアルミ塗料を使った商品制作を行った。
監視員
学校の課題の一環
学芸員資格取得科目、博物館展示実習にて、学生のみで展示の企画、展示、発表を行う。今現在それに取り組んでいる。博物館実習にて、パノラマ撮影を行い、デジタル化を行った。
英語の授業で展示物(ポスター)の説明の英語音声を作成した。録音したデータをQRコードにし、それらを紙に印刷してスマートフォンで読み取れるようにした。
ゼミ展示
ゼミで美術展
ゼミで大学のミュージアムの展示を見て学んだことを発表し、相互理解に励んだ。
シュールレアリスムの展示
サークルでの制作物展示
グループでの展示

質問8 自分の大学のミュージアムへは、どのような動機で展示を見学しに行きましたか（複数回答可）

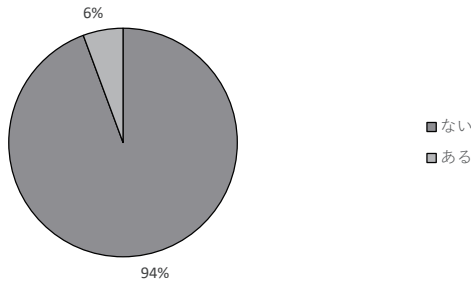


質問9 自分の大学のミュージアムを利用して何か活動（展示や発表会、イベントなど）をしたり、活動にかかわったりしたことがありますか



質問11 自分の大学ミュージアムのイベントなど（展覧会以外）に見学者・来館者として参加したことがありますか	回答数
ない	534
ある	32

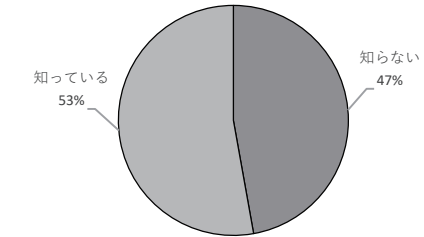
質問11 自分の大学ミュージアムのイベントなど（展覧会以外）に見学者・来館者として参加したことがありますか



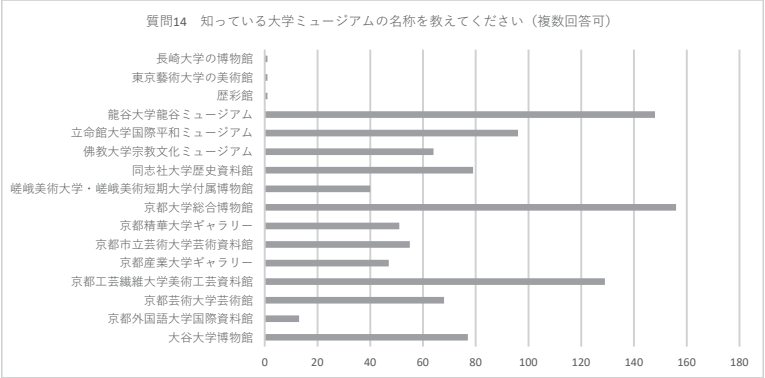
質問12 それはどのようなイベントでしたか（質問11に続いて。自由記述）
龍谷ミュージアムの「ブッダのお弟子さん」
友人や先輩の展示企画など
仏像展
仏教に関する展示
伏見人形など、京の郷土玩具の展示
普段開放されていない展示物の中を案内していただいた
能面についての展示会と能面師の講演を兼ねたもの
能面についての展示会と、それに伴って能面制作者の講演があった
能面
日本庭園のみかた
特別展の講演会
展示会
展示会
展示に関する講演会
著名な建築家の平面図スケッチを観覧するとともに軽く解説をきくイベント。
他大学との合同で行われた展示
西洋ポスター展示のイベントでした。
春の特別展
授業
高校の発表会
工芸美術館を訪れた
近代ヨーロッパの展覧会
企画展示
楽しかった
学部創立記念イベント
学芸員の方が展示物について解説してくれるイベント
それはどのようなイベントでしたか。
オープンキャンパスでの無料開放
オープンキャンパスでの見学会
オープンキャンパス
ある有名な画家の作品を取り上げた展覧会
嵯峨美術大学芸術学部デザイン学科のイラストレーション領域の作品展示。

質問13 あなたは他の大学にミュージアムがあることを知っていますか	回答数
知らない	318
知っている	356
総数	674

質問13 あなたは他の大学にミュージアムがあることを知っていますかn674



質問14 知っている大学ミュージアムの名称を教えてください（複数回答可）	
大谷大学博物館	77
京都外国語大学国際資料館	13
京都芸術大学芸術館	68
京都工芸繊維大学美術工芸資料館	129
京都産業大学ギャラリー	47
京都市立芸術大学芸術資料館	55
京都精華大学ギャラリー	51
京都大学総合博物館	156
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学付属博物館	40
同志社大学歴史資料館	79
佛教大学宗教文化ミュージアム	64
立命館大学国際平和ミュージアム	96
龍谷大学龍谷ミュージアム	148
歴彩館	1
東京藝術大学の美術館	1
長崎大学の博物館	1

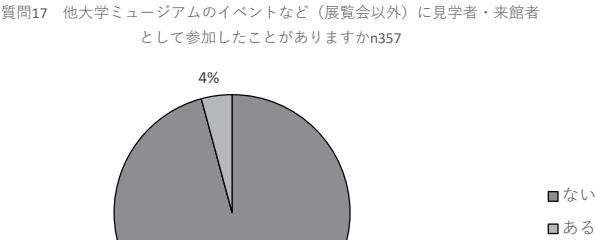
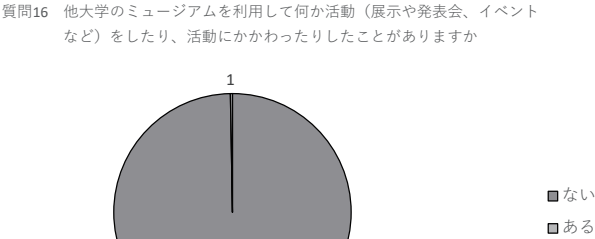
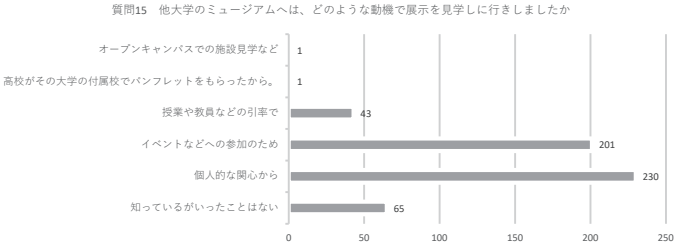


質問15 他大学のミュージアムへは、どのような動機で展示を見学しに行きましたか	回答数
知っているがいったことはない	65
個人的な関心から	230
イベントなどへの参加のため	201
授業や教員などの引率で	43
高校がその大学の付属校でパンフレットをもらったから。	1
オープンキャンパスでの施設見学など	1

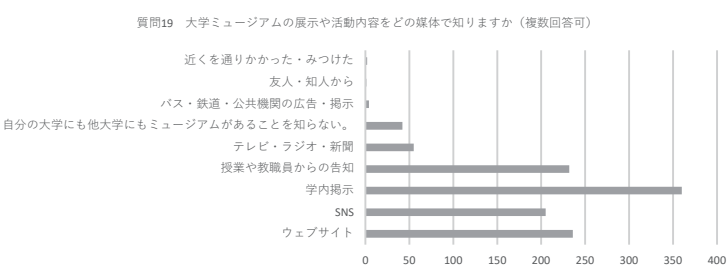
質問16 他大学のミュージアムを利用して何か活動（展示や発表会、イベントなど）をしたり、活動にかかわったりしたことがありますかn356	回答数
ない	355
ある	1

質問17 他大学ミュージアムのイベントなど（展覧会以外）に見学者・来館者として参加したことがありますか。N357	回答数
ない	342
ある	15

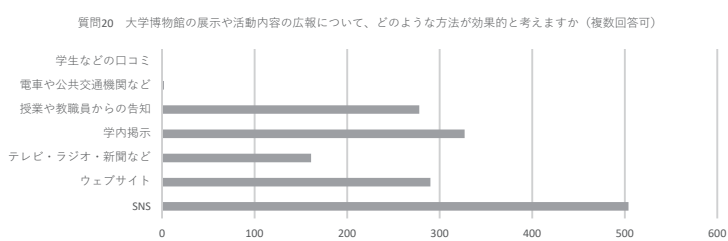
質問18 それはどのようなイベントでしたか（質問17の続き・自由記述）
龍谷大学のオープンキャンパスの一環で
仏像展示イベントでした。
仏教展
仏教に関する展示
仏教に関する
仏教
大谷大学博物館の「清沢満之と真宗大学」
生徒作品の展示イベントでした。
授業
作品展
講演会です。
京都大学見学
オープンキャンパスのキャンパスツアーの一環で
オープンキャンパス
zoomでの講義



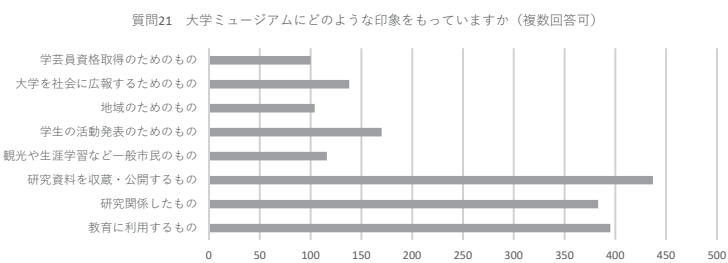
質問19 大学ミュージアムの展示や活動内容をどの媒体で知りますか（複数回答可）	回答数
ウェブサイト	236
SNS	205
学内掲示	360
授業や教職員からの告知	232
テレビ・ラジオ・新聞	55
自分の大学にも他大学にもミュージアムがあることを知らない。	42
バス・鉄道・公共機関の広告・掲示	4
友人・知人から	1
近くを通りかかった・みつけた	2



質問20 大学博物館の展示や活動内容の広報について、どのような方法が効果的と考えますか（複数回答可）	回答数
SNS	504
ウェブサイト	290
テレビ・ラジオ・新聞など	161
学内掲示	327
授業や教職員からの告知	278
電車や公共交通機関など	2
学生などの口コミ	1



質問21 大学ミュージアムにどのような印象をもっていますか（複数回答可）	回答数
教育に利用するもの	395
研究関係したもの	383
研究資料を収蔵・公開するもの	437
観光や生涯学習など一般市民のもの	116
学生の活動発表のためのもの	170
地域のためのもの	104
大学を社会に広報するためのもの	138
学芸員資格取得のためのもの	100



質問 22 大学ミュージアムはどのようなものであってほしいと思いますか。(自由記述)

恣意的ではなく、公平で広く開かれたもの
歴史を知らせるためのもの
立場にとらわれず広い世代の人が来れる
利用の申請が気軽に行えるものであってほしい
明るくて入りやすいところ
万人受けしなくても、見に来てもらえる人の一部に楽しさやまた来たいと思えるような展示やイベントを開催して欲しい
万人に開かれた博物館であってほしい
毎回特色ある展示を行ってほしい。
本格的な展示と、芸術に触れた回数が少ない人向けの展示の両立ができる状態。
訪れる人に落ち着ける空間を提供し、見る人の好奇心を煽るような展示物のある空間
訪れやすい場所
訪れやすい場であってほしいと思う。
訪れやすい場
訪れやすいもの
訪れやすいところ
訪れた誰もが記憶に残るような場所
訪れたらある程度情報が得られて、理解が充分にできるもの
勉強に役立つ
文化的な物の価値観を得られるような場であってほしいと考える
文化の保存だけでなく学生の活動を社会に広報する場
分かりやすさを有するもの
幅広い世代や立場の人が学べる場所
敷居の低い場所
不特定多数が抵抗なく行きやすいようなもの
博物館を身近に感じられるような存在。
博物館や資料館において学生が興味をもつ場になってほしい。
博物館に興味がない学生でも気軽に足を運べる
年齢に関わらず、探究心を刺激する場であってほしい
入りやすい雰囲気のもの
独創的な場所。
独創的なもの。
特になし
度々観に行けるような施設。
伝統を壊さないように保持し続けてほしい。
伝統ばかりでは無く、幅広い系統のものを見たい。
展示物について知識を得られる場
地域社会に貢献して研究の礎になるもの

地域の方や学生が気軽に学びに行ける場
地域の文化も展示する場
地域の中心
地域の人でも気軽に利用できるもの。
地域の人が手軽に訪れて、リフレッシュできる場であってほしい。
地域の人からも親しみを持たれる場所。
地域の人がたくさん訪れる場所。
知的好奇心をくすぐってくれるもの。
知の集積地
誰もが来やすい場所。
誰もが気軽に訪れて貴重な資料を適切に閲覧できる場所。
誰もが気軽に訪れ、美術に触れることのできる場所
誰でも利用でき、それぞれに何かしらの形で有益になるもの
誰でも利用が可能なもの
誰でも訪れやすく、交流の場になる場所
誰でも中間可能な歴史に触れやすい場所
誰であっても気軽に訪れ、美術に触れることのできる場所
誰しものが気軽に文化、美術、研究に触れることができるものであってほしいと思います。
大学生以外の人も訪れたいと思える場所
大学生の日々の成果の発表の場でもあり、それを学内外に関わらず気軽にみに行ける場所。
大学生の芸術に対する興味を刺激するもの
大学関係者以外も訪れるが、主に大学関係者が見学・参加する場であってほしい。
大学関係者にとっても、それ以外にとっても開かれている存在であってほしい。
大学関係なく多くの人が利用できる場所
大学間の相互の研究協力のある場であってほしい（一番わかりやすい形での外部発信・協力の場であると考えている）
大学外に広く開かれ、気軽に入る事が出来る場所であって欲しいと思います。
大学を象徴するもの
大学を象徴するもの
大学やその大学にいた人が、社会とどのようにつながっているのかを知れるもの。
大学の歴史を保存するもの
大学の歴史を知ったり、教育について知ることのできるもの
大学の特色を生かした内容
大学の生徒や関係者以外の人も気軽に展示を観に行けたら良いと思う。

大学の社会貢献活動を発信する場
大学の個性が発揮されているほうがいいと思います。
大学の個性が出るようなもの
大学の個性が現れた展示を行っている場
大学の研究を広く一般の人々に知らせれるもの
大学の研究を公表しつつ地域との連携も行い、特に研究において次世代を担う子どもたちの学習に役立つ学習を提供するものであってほしい。
大学の研究や教育を外界に共有しながら、大学に付属するのではないでほしいです。
大学に直接関係のない人がミュージアムを通して大学を認知できるような、また在学生がミュージアムの存在と展示内容を自慢できるようなものであってほしいと思います。
大学に所属する人以外も気軽に立ち寄ることのできる場所
大学に所蔵されている様々な価値ある資料に、より多くの一般の人が触れられるよう、一般の博物館・美術館同様に身近なものであればいいと思う
大学にある博物館として教育、研究においての博物館の重要性を実感できる場。
大学にあるという利点を活かせるミュージアムであってほしい
大学という大きな組織で様々な資料の意義を伝えていけるものであってほしいと思います。
大学ごとのテーマを持ったもの
大学が所蔵する貴重な資料を定期的に公開し、学生の研究に役立つものであってほしい。
大学が今までに行ってきた研究活動を公開するものであって欲しい。また、美術品などの展示をする美術館のようなものでもあってほしい。
大学が行っている活動を具体的に示す場
多種あふれる収蔵物があり、比較的簡単に利用できるもの
多くの人が利用できるもの
多くの学生が通い、美術、歴史に関しての多くの知識を得られる場所。
他大学の学生も来やすいようなミュージアムになってほしい。
他大学でももっと行きやすいものであってほしい。
魅力的な展示をしていてほしい。
総合的な展示がされている。
静かな場所
生徒の作品を展示する場所であったり、作品を作る上で参考になるような作品を展示するようなものであってほしい。
生徒の学びにより良い影響を与え、かつ気軽に利用しやすいものであってほしい。また、イベントなどの情報を

取得しやすい広報があると嬉しいと思う。
生徒だけでなく地域の人にも開かれたものであってほしい。
生徒が作品を発表することができる場所が、限られているふうに感じます。そのため、連携大学生であれば誰でも気軽に作品展示ができる場があればいいと思います。
正直、考えたことがなかった。
世間ではあまり人気がないが学術的な価値が高いものを収蔵・公開する場としての役割を果たしてほしいと思う。
世の中のあらゆるものに対して多観点で物を見られるようにするためであったり、研究心 探究心を向上させるための発信力の支えとなる場所であって欲しい
世の中にひらかれたものであってほしい。
図書館くらいの感覚
人々の新たな興味・関心を持たせるもの。
人々の新たな関心・興味を引き出すもの
人の心を落ち着かせるもの。
人にとって何かのプラスになるものが見られる場所
身近なもの
身近で親しみやすい施設であってほしいと思う。
身近で開かれた場所
身近で親しみやすいもの
色々な人が気軽に来れる場所
常設の校史展覧！
常に学びを得られるもの
少なくとも、その学校の生徒や教員は、気兼ねなく利用ができる場所
授業の発展した内容であったり、多種多様なジャンルを展示するもの
主にその大学に通う学生の学習に役立つ内容の展示を行うもの。
主にその大学に関連した展示を行い、ミュージアムに行けばその大学の教育の歴史や学びの内容などを知ることができるようなもの。
社会と繋がっているところ
自由で、誰でも受け入れられるところ。
自由かつ平等に活動や教育を行うことができる公共の場であってほしい。
自分の知らなかったことや他学部で何をしてるか分かるような知識の場
自分の大学の魅力を発信でき、興味を持ってもらえるもの。
自分のアイデアの手がかりを手軽にインプットできる場所であってほしいです
自身の大学生や市民に愛されるもの。
資料展示だけでなく大学での研究の成果もわかるもの
資料の保存場所資料が見やすく、学習がしやすい展示が

されている場であって欲しい
史料が学術的な研究に活用され、開かれた場であるべきだ。
参考になるもの
作品鑑賞を気軽に楽しめる場所
作品を世に広める場。
今まで知らなかった分野に関して興味を持ち、学び始めるきっかけとなるもの。
今のままでいいと思います。
国公立美術館、博物館、企業の博物館のような好奇心がくすぐられるような、ワクワクする場所であってほしいです。
公立や企業によって運営されているものと差別化させた展示、例えば学生が主体になって開催したもの、学生の作品を展示したものなどがあるとよいと思う
後世に伝えられていくもの
現代アートを学ぶ場
現代アートに触れる場
現在、私は自分が通う大学の大学ミュージアムしか知らなかったし、他の大学へは行きにくさがあるので、もっと行きやすく酸化しやすいものになってほしいと思います。
見聞を広げるもの
見学側、大学ミュージアム側の共に満足していくものであり、一時的なものではなくこれからにも役に立つもの。
見学にいかなくてもウェブサイトなどで何があるか紹介されていて欲しい
見る人々の好奇心やイマジネーションを掻き立てるもの
研究面では秀でてほしい
研究者、大学関係者を越えたすべての人に開かれた空間
研究資料を収蔵・公開し、教育に役立ててほしい。
研究機関として文化の発信場所並びに継承場所としての役割を果たす場所
研究への手がかりとなるもの、歴史的価値を保存するもの
研究の参考になるようなもの
研究に関するものが多くある。
堅苦しすぎず、色々な人にひらけた場であってほしい(そのためには SNS などを用いて PR する)
芸術への関心を集め、好奇心を満たしてくれるもの。
空き時間に軽い気持ちで行けるような場所
空いている時間に気軽に入れるようなミュージアム
興味を惹くもので、学びに生かされるもので興味のない人でも楽しくみられるようなもの。
興味ない学生でも見学し面白いと思えるもの
興味がない分野でも面白そうだと感じさせてくれるようなもの
興味がない人にとってはとことんつまらなく、興味があ

る人は何時間も滞在してしまうような施設
興味、関心を掻き立てられる場
教育的要素が強いミュージアムであってほしいです。
大学という教育機関が運営しているので、他とはミュージアムとは違い、講義がそのミュージアムの学芸員であったりと学生との関わりが深い。そのため、学生の立場を一番理解しているはずだ。そのため、大学生だけでなく高校生や小学生により歴史の面白さ、学ぶ意義を伝える場にしてほしいと考える。
教育に利用するためのものであるべきだと思う。
一般的なミュージアムと同じ目的で運営されるものではなく、大学という場にあり、利用する人の大多数が大学生であるという特質を生かさねばならないと考える。
貴重な資料を拝見できる場、研究結果の発表の場
気軽に立ち寄れるところ
気軽に利用できるものであって欲しいと思います。
気軽に訪れやすく、興味が湧く場所
気軽に入れて楽しめる場所
気軽に入れて楽しい場所。
気軽に足を運べる場所
気軽に行ける博物館
気軽に行ける場所であってほしい
気軽に行ける場所
気軽に行けるところ
気軽に行きやすい場所
既存の概念に縛られない新しい展示、方向性を導くような立場であってほしい
関心の幅が広がるきっかけ
簡易的に、また学外関係なく集うプラットフォームであってほしい
楽しそう！と純粋な興味から行ける場所であってほしい。
楽しくさまざまなことが学べる場
学部生の時から、授業などでミュージアムに関連したフィールド学習などが盛んに行われるとよい。
学内の研究等について、知ることができるとよいと思う。
学内に溶け込んだパブリックな場所
学生向けの簡易な説明文や活発なイベントなど、学生にとって親しみが持ちやすいもの。
学生向けの簡易な説明文の記載や活発なイベントなど、親しみをもちやすいもの。
学生以外にも利用できやすい場所
学生も学外の人も気軽にかかわれ、交流できる場であってほしいと思います。
学生へ向けての展示もそうだが、一般市民向けに生涯学習の場としても機能してほしいと思う。
学生はもちろん地域住民にとっても身近な学びの場であ

ってほしい。

学生の研究の助けになりつつ、一般市民の方も気軽に訪れることが出来るようなもの

学生の研究に役立ち、見学したいときに見学できるもの
学生の研究にも、一般市民の生涯学習にも役立つものであってほしいと思う。

学生の教育や研究に利用し、地域との関わりもあるようなものであってほしいと思う。

学生の活動発表の場としてあってほしいと思っています。

学生の活動発表が活発に行われる場であってほしい。

学生の活動を発表できる場

学生の学びを深められる場所であってほしいです。

学生の、多領域への学問的な興味を刺激するもの

学生にとって展示内容への関心を高めるもの

学生にとって大切な場所

学生にとって一番利用しやすいものであってほしいと思う。

学生だけでなく地域の人との交流がある場所

学生だけでなく広く一般に利用される施設

学生だけでなく外部の人でも入りやすいものであってほしい。

学生だけでなく一般の人も学ぶことができるもの。

学生が有意義に利用できる空間

学生が訪れやすいもの

学生が自由に利用できる、興味がない人も行こうと思えるような興味がそそられる所

学生が最も気軽に利用できる存在。また、一般の人にも認知される存在になってほしい

学生が考古学研究の学びの場として利用できるような空間であってほしい。

学生が芸術関連のものにふれあいやすい空間

学生が教養を身につける場

学生が気軽に利用できるもの

学生が気軽に訪れることができるところ。

学生が気軽に入れる学びの場

学生、まち、大学と結びついた、伝統がありながらも新規性を持つような公の場。

学習できる場であってほしい

学校外にも開かれていて気軽に入りやすく、また何が展示されているかが分かりやすいものであるべきと考えます。

学芸員を育成する場

学外の人にとっても親しみやすいものであってほしい

学びを得ることのできる場

学びの場

学びの出会い場であり人間の関心を引き立たせるもの

各大学の特色や特徴的な所蔵物を展示する場であってほ

しいと共に、ミュージアムに興味のある人間が生徒・教授などの肩書き関係なく意見を交換できる場であってほしい。

開かれた場所

一般人でも楽しめるもの

一般の方も興味を持って足を運んでくれる、ミュージアムがきっかけでこの大学を受験してくれるような、学生時代にしかできない取り組み

一般の美術館のように在学生以外も訪れてほしい一

般の大人と学生と研究者を繋ぐ架け橋になってほしい。

一般の人誰もが気軽に足を運べる場所

一般の人々も興味・関心をもてる展示を行うとともに、気軽に訪れることができる場所

一般の人にも気楽に行けるような場所であれば、たくさんの人に観覧してもらえるように思います。

一般のミュージアムにも勝るとも劣らない施設

一般に広く公開されるもの。

一般に広く開かれ、その存在が認知されやすいもの。

また、教育機関ではない研究機関としての大学と一般との架け橋になるもの。

一般に開かれたもの

位置が分かりやすい場所にあってほしい。行き方がわかる掲示板がないといまいちわからないことが多い。

安い、早い、うまい

リアルを体感できる場所

より学問に興味の無い人でも気軽に入れるようなものであると良いと思う。

より開かれた場であって欲しい

ユニークな場所。

ユニークな場所。もっと頻繁に色々な展示をしてほしい
もっと多くの市民に活用してもらいたい

もっと気軽に誰でも足を運べるところになれば良いと思う。

もう少し来館者が増えると良い。

より認知されるべき。

もう少し気軽にいけるような雰囲気であってほしい。今は少し入りづらい。

みんなに開かれた場所

みんなが笑顔になれる施設

ミュージアムの運営などに関する知識をもっと発信してほしいです。

まず、全体的に言えば、どの大学に博物館があるのか、ほとんどの方々は把握していない。そのうえ、どうしても京都国立博物館、京都文化博物館など、一般の博物館よりも大学ミュージアムは劣っている印象があると思う。それらが改善された大学ミュージアムを目指して行くべきである。

教員に聞いたのだが、私の大学、大谷大学の現状でいえば、展示のチラシの設置や配布場所はもちろん、大学前の宣伝ですら満足に行えず、発信できない状況。そのため、来館者は地域のご年配の方々がほとんどである。問題だと思うのが、一般の博物館にチラシの配置をお願いし、許可を得たとしても、実際は配置がされていないようである。大学ミュージアムは一般の博物館にすら理解を得られていないのが現状だ。

学生が熱意を持って学芸員の勉強に取り組むためにも協力はしてほしい。

小規模大学ミュージアムは関係ないと、一般の博物館に認識されているのかもしれないが、博物館の明るい未来を作るのは、今の若い学生なのではないだろうか？

大学ミュージアムについて、多くの人々の理解を得るためにも、一般の博物館の協力はもちろん、他大学の博物館の協力、地域の人々、外部の機関の積極的な協力が必要なのではないだろうか他にも、最近は華やかな博物館が流行っている傾向がある。可能であれば、内装はもちろん、ミュージアムショップ、ミュージアムレストランにこだわった方がいい。

わくわくする場所に興味を待つのが小さな来館者で、SNSに上がった写真をチェックした若い来館者が来るのが、現代である。もちろん、好奇心が持てれば展示内容もしっかり見てもらえるだろう。お年寄りの来館者の方が多い大学ミュージアムはきっとその逆の傾向にある気がする。さらにいえば、それらが充実していない傾向にあるのが大学ミュージアム全体の印象である。

一般の博物館は多くのスポンサー、協力してくれる方が多いためいろいろと充実しているだろうが、大学ミュージアムはそのあたりがあまり充実していない大学がほとんどなのは。

博物館にかけられる費用も全く違うと思われるので、そもそもそこで差が生まれてくる。大学ミュージアムは劣っている印象にも繋がる。

幅広い年齢層で、多くの来館者の方に来ていただけるように、大学ミュージアムが他の一般の博物館のように、広く周知されてほしい。

フラットに入れるような開かれた場所
どんな人でも気軽に利用できる場所
どんな人でも気軽に利用できる場
どんな人でも気軽に資料を閲覧できる場所
どのような年齢層の人でも気楽に立ち入る事のできる場所。

どのような学生にも開かれた場所
つまらないと感じさせないもの
だれでも利用できる学びの場
だれでも気軽に行ける場所
たのしく鑑賞できるもの

ただ展示をするだけでなく、研究者と学問に興味を持つ一般の人との交流の場であってほしいです。

たくさんの一般の方が訪れる地域の中心となるもの。

それぞれの大学ミュージアムに特色があって、全てのミュージアムを誰でも楽しめるようなものであってほしい

それぞれの大学に根ざした特色のあるもの

さまざまな見解や理論が平等に示されているもの。(特定の考え方しか提示されていないミュージアムではあってほしくない。)

その分野に興味を持たせるもの

その大学特有の研究を反映したもの

その大学特有の研究を反映したもの

その大学の特徴や特色が表れているもの。

その大学の特色を表わすもの

その大学の特色に合ったものであってほしい

その大学の象徴となるようなもの

その大学の在校生がイベントのたびに訪れたくなるようなもの

その大学の学生だけでなく、他大学生や地域の人々が気軽に利用できるものであってほしいと思います。

その大学の学生が携わってほしいと思う

その大学のことを知ることができるもの

その大学に所属する大学生に遠く有意義なものであってほしい

その大学に関わることをはじめとして、さまざまなことを教えてくれる場所であってほしい。

ずっと語り継がれるもの、丁寧に保存されるもの

コロナ下では、学生が教育の目的で利用することに留まるべきであると思う。

これからも残していかなければならない大切な学びの場所であってほしい。

これからに活かせる知識がつくもの

おもしろいもの

いろんな人が訪れる場所であってほしいと思う。

いつでも誰でも気軽に訪れやすいものであってほしいです。

いつでも誰でも閲覧出来るようにして欲しい。

いつでも気軽に見学できる場

あまりよく分からないが、興味を引くような面白いものであってほしいとおもう。

あくまでその大学で学んでいる学生の興味を引いて、新たな学習のきっかけになりうるもの

大学生の利用者などがより使いやすく、利用しやすいものであってほしいと考えます。

私は、他大学であっても大学ミュージアムを多くの人が自由に利用できるものであってほしいと思う。他大学ということもあり少し敷居が高いイメージがあるため、なかなか気軽に入ることができない気がする。そのため多

くの人がもっと自由にたくさんの作品・収蔵品などの歴史を目で見て触れてほしいと私は思う。

経済的にも、雰囲氣的にも利用しやすいものであってほしいです。

学生だけではなく様々な人にも見学にきてもらえる場所であってほしい

それぞれの大学の特色(学科や研究内容)に合致する作品を収集・保管・展示する場所であってほしい。